

令和7年度 博物館施設 目標設定・評価シート

年度当初目標設定
中間評価（9月末実績）
年度末確定評価

さきたま史跡の博物館

I 自己点検・分析

- 1 館の使命・ビジョン
- 2 現状分析と課題の抽出
- 3 チェックリスト（自己点検表）

II 目標や方針の設定

- 1 中期的な目標や方針及びそれに関する取組の設定
- 2 単年度指標による数値目標と達成値
- 3 取組の概要

III 評価

- 1 自己評価総括
- 2 外部評価委員等によるコメント

I 自己点検・分析

1 館の使命・ビジョン

- 1 埼玉古墳群の調査を進め、史跡整備を継続、推進するとともに、金錯銘鉄剣など貴重な文化財を将来にわたり確実に保存、管理し、その活用を図る。
- 2 古墳公園を安心して利用いただけるよう維持・管理し、快適な史跡空間として提供していく。
- 3 埼玉古墳群をはじめ県内の史跡や遺跡、考古資料の総合的な博物館として、関係資料の収集、保管、調査、研究を進め、関係機関と連携し、その成果を企画展や講演会等で公開する。
- 4 埼玉古墳群や館有資料などを生涯学習や学校教育において広く活用する事業を積極的に展開する。

2 現状分析と課題の抽出

- 1調査及び史跡整備は基本計画に基づき実施しているが、予算の制約があることから今後、計画の見直し(工事期間の延長等)が必要になる可能性がある。国宝展示ケースは令和6年度末に納品されたが、有害物質の発生等、細心の注意が必要である。
- 2予算上の制約のため、適切な草刈り等の園地管理が困難な状況にある。
- 3資料保管に関して、収蔵庫の空きスペースがなく、文化財収蔵施設に分散収蔵しており、適切な管理が難しい状況にある。関係機関との連携については古代歴史文化協議会や行田市等と展示、研究で積極的に実施している。
- 4従来からの出張授業等に加え、中・高生向けのキャリア教育関連事業を展開し始めた。課題は、これら小中高生向けの事業には多くの申し込みがあるが、会場や資料の関係上、参加人数を絞り込まざるを得ない点である。

II 目標や取組の設定

1 中期的な目標や方針及びそれに関する取組の設定

【中期重点目標】

(No.)(目標)

- (1)古墳公園の適切な管理 令和5～7年度
- (2)調査・研究の推進・成果公開 令和5～7年度
- (3)博学連携の取組についての学校向け情報発信 令和5～7年度

【取組】

- (1)移築民家の今後の在り方検討。防犯カメラ等の計画的設置
- (2)古代歴史文化協議会研究テーマや発掘調査等の調査・研究・成果公開の事業サイクルの構築
- (3)ネット活用、他機関との連携による学校向け情報発信

I-3 チェックリスト(自己点検表)

さきたま史跡の博物館

(1) 全館共通項目

		達成基準	
		未実施、又は取り組まれていない	1
		実施しているが、取組みが不十分	2
		実施、又は達成している	3
項目	チェック内容	達成度	課題等
資料収集	① 資料の収集方針、収集計画に基づき、資料収集を適切に行っているか	3	
	② 映像資料や情報資料等を収集しているか	3	配架・収納箇所の不足
資料の保存管理	① 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項に基づき、資料の保存管理を適切に実施しているか	3	
	② 資料の所在確認とともに状態の点検を定期的に行うなど、資料を適切に管理しているか	2	文化財収蔵施設に分散収納のため定期点検に課題あり
	③ 資料の修復や保存処理等の措置を計画的あるいは必要に応じて行っているか	2	令和8年度から計画策定し順次実施予定
	④ 資料のデータベースの情報を適宜更新し、公開しているか。	2	直近の発掘資料が未公開 令和8年度実施予定
資料活用	① 収蔵資料の館外貸出及び特別利用に適切に対応しているか。	3	
	② 収蔵資料をホームページやSNS等で紹介・更新しているか	3	
	③ 収蔵資料のデジタル・アーカイブ化(画像を含めた)に取り組んでいるか	3	
常設展示	① 展示設備等を適宜点検しているか	3	
	② 常設展示は定期的に更新しているか。	3	
	③ 展示ガイドあるいは解説リーフレットを作成し、必要に応じて内容を更新しているか	3	
	④ 展示解説等を適宜実施しているか	3	
	⑤ アンケート結果等を活かした展示改善を実施しているか	3	
	⑥ 日本語を母語としない入館者に配慮した案内表示や展示パネル表示、パンフレット等の配布を行っているか	3	
	⑦ 観覧者の満足度は得られているか	3	
学習支援・普及事業	① 誰もが参加しやすい普及事業を実施しているか(参加申込み方法・プログラム内容・サポート体制等)	3	
	② アンケートなど県民の意見をプログラムの開発・改善に取り入れる工夫をしているか	3	
	③ 来館者用の図書・情報コーナーを適切に運営しているか	3	
	④ 学芸員実習やインターンシップを積極的に受け入れているか	3	

項目	チェック内容			
情報発信	①	SNS等その他のあらゆる媒体を活用して、誰もが受け取ることができる情報発信に努めているか	3	
	②	資料その他の専門分野に関する調査研究の成果を生かした情報発信に努めているか	3	
	③	定期的に内容を更新し、常に新しい情報発信を行っているか	3	
	④	デジタル技術を活用したコンテンツの制作・公開に取り組んでいるか	3	
県民との協働・地域連	①	ボランティア活動に関する規程に基づいて、適切に運用されているか	3	
	②	ボランティア研修を適切に実施しているか	3	
	③	外部団体が館事業に参加する機会を設けているか	3	
	④	地域で実施されるイベント等に積極的に関わっているか	3	
	⑤	地域の多様な主体との連携に取り組んでいるか	3	
調査研究	①	収蔵資料に関する調査研究に積極的に取り組んでいるか	3	
	②	資料の保存・管理、展示・教育普及、博物館経営等の博物館学分野での調査研究に取り組んでいるか	3	
	③	館の所在する周辺地域や地域資料についての調査研究に取り組んでいるか	3	
	④	学芸員の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	3	
	⑤	調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法(著作物、展示、講演、研究発表等)で公開しているか	3	
施設・アメニティー	①	施設の維持・改善についての計画を策定し、定期的に更新しているか	3	
	②	バリアフリー化など、改善必要箇所の把握のため自己点検を行っているか	3	
	③	一般駐車場と障害者用駐車場を区別しているか	3	
	④	手すり、点字ブロック、音声ガイダンスなどユニバーサルデザイン化への取り組みがなされているか	3	
	⑤	館内サインの英文標記など国際化への対応はとられているか	3	
	⑥	展示室内の安全性の確保(監視員の配置・監視カメラの設置等)に努めているか。	3	
施設の利活用	①	施設利用のための情報を公開しているか	3	
	②	施設を一般及び学校団体等の利用に提供しているか	3	
	③	施設が地域の賑わい創造や活性化に活用されているか	3	
	④	施設利用が、地域や他施設・機関・学校等との連携に役立っているか	3	

施設名 さきたま史跡の博物館

(2)館別独自項目

		達成基準	
		未実施、又は取り組まれていない	1
		実施しているが、取り組みが不十分	2
		実施、又は達成している	3
項目	チェック内容	達成度	課題等
史跡 施設 整備 と 活用 事業 の実 施	① 外部からの指導・助言のもと、全体的な整備計画を策定し、かつ状況の変化に応じて適宜見直しを図っているか。	3	
	② 史跡整備関連の研修参加や整備事例の視察を行っているか	2	予算制約あり
	③ 発掘調査成果を現地見学会や講座、SNS等で公開しているか	3	
	④ 史跡や整備に関する講座・講演会を行っているか	3	
公園 整備 と 活用	① 全体的な整備計画の策定に関与しているか	3	
	② 外部に公園の利・活用を呼び掛けているか	2	使用料が発生するため、積極的な呼びかけできず
	③ 公園利用についての諸規定があるか	3	
考古 学 の 実 施 事 業	① 各年代向けのバラエティに富んだ体験事業を行っているか	3	
	② 外部からの出張事業の要請に応えているか	3	
	③ 他館の事例収集やアンケート結果分析を通して、適宜事業の企画・検証・改善を図っているか	3	
企画 展 示 事 業 の 実 施	① 考古の専門館としての企画展を計画・実施しているか。	3	
	② 展示関連の講座・講演会を開催しているか。	3	
	③ アンケートを実施して、参加者の意向を把握しているか。	3	
関係 機 関 と の 連 携	① 行田市ほか地域団体との連絡調整・連携事業を実施しているか	3	
	② 考古学関係団体や他機関との共催事業を実施しているか	3	
	③ 埼博連等、博物館団体との連絡調整・連携事業を実施しているか	3	

施設名 さきたま史跡の博物館

Ⅱ－２ 単年度指標による目標値と達成値

(1) 全館共通項目

	視点	項目	指標	目標値		達成率	目標値の設定根拠
				達成値			特記事項
1	使命1－6 全般的活用	利用者数	年間入館者とアウトリーチ参加者数	106,000	人	104%	教育振興基本計画目標数値
				109,827	人		
2	使命2 展示公開	常設展観覧者	年間常設展観覧者数	89,140	人	98%	5か年の最高値、最低値除く平均値
				87,551	人		
3	使命1－6 全般的活用	利用者数	1日当たりの利用者数	335	人	104%	5か年の最高値、最低値除く平均値
				348	人		開館日315日（そのうち本館のみ休館8日間）
4	使命2・3 情報発信・活用	デジタル情報の利用状況	HPアクセス数	1,935,760	件	74%	R6度実績（平均値は536,253）
				1,426,201	件		R4は61万、R5は115万
5	使命2 情報発信	広報活動	メディア掲載件数	52	件	106%	5か年の最高値、最低値除く平均値
				55	件		一般43、企画展、鉄剣再展示等掲載12
6	使命2・6 活用・利用提供	経営努力	観覧料および事業等収入額	9,613,000	円	121%	予算金額（特別利用・観覧料・物販）
				11,628,690	円		（563490円＋6929900円＋4135300円）

(2) 館別独自項目

	視点	項目	指標	目標値		達成率	目標値の設定根拠
				達成値			特記事項
1	使命1 史跡活用	史跡整備 成果公開	シンポジウム 等 参加者	288	人	196%	5か年の最高値、最低値除く平均値
				565	人		(シンポジウム356人、現地説明会209人)
2	使命3 展示	観覧者	企画展・テーマ 展の観覧者数	36,100	人	109%	5か年の最高値、最低値除く平均値
				39,322	人		5種(うち2種は年度またぎ)企画展等
3	使命3 学校連携	出前授業	出前授業の実 施校数	40	校	145%	5か年の最高値、最低値除く平均値
				58	校		中期重点③ (授業＋出前まが玉等体験)
4	使命1～3 学校連携	団体利用	小・中学校団 体の利用校数	131	校	129%	5か年の最高値、最低値除く平均値
				169	校		小学校152校、中学校17校
5	使命1 資料保存	IPM	年間のIPM回 数	8	回	138%	昨年度実績値(R4以前は資料点数)
				11	回		4月を除き毎月実施
6	使命1・3 展示	アンケート	アンケートでの 企画展満足度	80	%	121%	80%の定性値
				97			テーマ展・おひろめ展①・企画展の「楽しめた」「概ね楽しめた」 アンケート回答計189より
7	使命1・3 講座	アンケート	アンケートでの 講座等受講者 満足度	80	%	115%	80%の定性値
				92			計5回のさきたま講座の「よかった」「概ねよかった」 アンケート回答計248より
8	使命1～3)	情報発信	X等によるイベ ント告知等	547	回	111%	3か年平均値(R3以前Xによる告知なしのため)
				605	回		X429、HP128、LINE48

※ 利用者数＝常設展観覧者数＋無料入館者数＋アウトリーチ参加者数 常設展観覧者数＝特別展・企画展観覧者数＋常設展のみの観覧者数

※ 基準値：過去5年間の最小値及び最大値を除いた分の平均値 目標参考値：基準値と昨年度値を比較して大きい方の数値 目標値：目標参考値の1の位を繰り上げた数値

3 取り組みの概要

施設名 さきたま史跡の博物館

中期目標に関する取り組み

(1)古墳公園の適切な管理

- ・「さきたま火まつり」等イベント前は、職員も草刈り等の環境美化を行った。
- ・立ち入り禁止区域の古墳墳丘部を対象とした点検を定期的の実施した。
- ・防犯カメラを3台設置し、次年度以降の防犯カメラ設置計画の準備を進めた。

(2)調査・研究の推進・成果公開

- ・計4本の論文等を所収した「埼玉県立史跡の博物館紀要」第19号を刊行した。
- ・企画展、テーマ展等で調査・研究の成果を公開した。
- ・7県から構成される古代歴史文化協議会にて、第4期(令和7～9年度)として「古墳時代の地域間交流」をテーマとし、共同研究を行った。

(3)博学連携の取組についての学校向け情報発信

- ・各種教員向け研修会での博物館利用の紹介
- ・県内学校向け冊子「はくぶつかん×がっこう」での情報発信
- ・学校向け出張授業用パンフレットの作成・配布

〈各事業実績等については「館報」参照〉

Ⅲ 評価

1 自己評価総括

(1) 評価

特記事項

・利用者数等は昨年度比微増であったが(R6度利用者105,586人)、2月末に2年半ぶりに国宝「金錯銘鉄剣」の実物公開とテーマ展を開催したことにより、3月の入館者数は前年度比42%と大幅増であった。
・出前授業・体験学習は目標値を大きく上回ったが、片道2時間の時もあり、今後は他館との地域割り等も含め検討する必要がある。
・学校団体の利用は、ここ数年の中では比較的多かったが、東京都からの利用が県内学校の約2倍であり、従来からの懸案ではあるが、県内学校のさらなる利用促進を図る必要がある。
・令和5年9月からの施設改修に伴う長期工事休館、その後の金錯銘鉄剣の展示ケース更新に伴うレプリカ展示など館の運営上、特殊なことが多かったが利用者数などが大きく落ち込まなかった。企画展等の開催、各種体験学習の充実、SNS等による積極的な情報発信であったと考えられる。

(2) 課題と対応の方向

1 史跡整備の計画推進

・令和7年度は当初予定した予算が確保でき、順調に整備工事等を実施できた。今後も国、県との連絡を密にし、中長期的視野をもって史跡整備を行っていく。合わせて「整備基本計画」で策定した第5期整備計画を実態に合わせて修正し、関係部局に周知を図る。
・更新した金錯銘鉄剣保存展示ケースは、運用間もないことから、酸素濃度や窒素ガス消費量、有害物質の含有状況など定期的にモニタリングを行う。

2 園地管理について

・草刈り状況等の情報発信を逐一行い、来園者のご不満やニーズに対応する。また関係部局と問題を共有し、園地管理に係る課題解決に向けて検討を推進する。

3 収蔵庫の空きスペース問題

・整理整頓、再収納による容量圧縮、文化財収蔵施設収蔵庫の利用等でスペースを確保する。

4 人気事業の申込過多について

・会場等のキャパシティに限界はあるものの各種事業のスクラップアンドビルドを行い、人気事業の回数を増やす等の方策を検討する。

2 外部評価委員等によるコメント

・園地管理は予算の制約もあり大変だが、頑張っていたきたい。なお令和7年度から実施している鉄砲山古墳の整備の一環で、樹木の伐採が行われたが、計画を拝見した際には少し残念な気持ちであったが、古墳の眺望が見違えるほど素晴らしくなった。
・移築民家や(旧)薬草園は本来であれば活用したいところだが、古墳公園のコンセプトに合致しないのは理解できる。古墳エリア外に移転して活用する方向も是非検討していただきたい。
・近年、全国的に収蔵庫不足に起因した資料廃棄の問題が取りざたされているが、近年では栃木方式とも呼ばれる県全体で検討することもある。埼玉県でも収蔵庫不足の問題は、県全体で考えるべきである。
・目標未達とした「資料のデータベースの更新」は、毎年発掘調査をして報告書作成を優先する中、できないのは当たり前である。計画的に少しずつ進めればよいと思う。
・園地管理のうち、クビアカツヤカミキリ被害とナラ枯れ被害は、様々な史跡を管理している市町村でも対応に苦慮している。吉見町に所在する史跡松山城跡ではナラ枯れ被害によりかなりの園路を通行禁止にしている状況にある。すでに市町村レベルで対応する段階ではなく、県としてその対処方法や講習会の実施の検討をしていただきたい。